

# 名古屋芸術大学グループ 通信

14  
October  
2010

## 「あいち トリエンナーレ 2010」 と 名古屋芸術大学



### Close up! NUA-ism ～進化する「名古屋芸大」のDNA

**NUA-OG**  
もう一度、リベンジを  
越賀登紀子

**NUA-STUDENT**  
「絶対イヤ!」が、始まりなんです  
デザイン学部  
メディア&コミュニケーションブロック  
イラストレーション選択コース 4年  
谷しおり

「なんでもやりたいくなっちゃうんですよ」  
デザイン学部  
メディア&コミュニケーションブロック  
メディアデザイン選択コース 4年  
富士井遊

### News/topics ニュース&トピックス

**音楽学部**  
■ 聴く・弾く・体験する——「音楽」満載の一日!  
オープンキャンパス2010  
未来の私に出会える、そんな予感の一日。  
■ デューク・エリントン楽団トロンボーン奏者  
スッタフォード・ハンター氏による公開講座  
が行われました

■ 音楽学部特別客員教授  
「山下洋輔公開講座」が行われました

■ 演奏学科特別演奏会  
「コンチェルトの夕べ」「ピアノサマーコンサート」  
が行われました

■ 親子できごと!! 音楽は友だちコンサート  
が開催されました

**人間発達学部**  
■ 特別公開講座  
「子どもが育つ条件—子どもとおとなの発達」

■ 2010年度 オープンキャンパス  
8月29日(日)開催!

**美術学部 / デザイン学部**  
■ オープンキャンパス2010  
未来の自分を体験編!! サマー編II 7.18実施

■ 特別客員教授 榎原由比子氏公開講座  
「空間を創り出すイメージの世界」  
—資生堂のウィンドウディスプレイと共—

■ 2010年度特別客員教授 萩原 修氏  
公開講座とワークショップ

■ 小・中学生とシニア対象の芸大体験  
「一日芸大生」開催  
僕も私もアーティスト!創造力の花開く

■ 名古屋芸術大学美術学部洋画卒業生展  
—Unique Commons  
わたしたちだけのみんなのもの—

■ インダストリアルデザインコース特別公開講座  
「モーターサイクル&カーデザインセミナー 2010」  
が開催されました

**グループ校特集 / クリエ幼稚園**  
■ 「明るく 聴く たくましく」  
どんなことも意欲的に取り組む  
子どもを育成

**コラム NUA**  
網渡り師にみるバランスの美  
美術学部教養部会 講師 西村和泉

**Master & Artist**  
マスター & アーティスト  
深奥なる世界のとは口  
音楽学部 演奏学科 声楽コース  
教授 松波千津子

**Information**  
インフォメーション  
■ 2010年10月～2011年3月までの  
主な行事・イベントスケジュール  
■ 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■ 名古屋芸術大学 / 大学院：  
音楽研究科  
美術研究科  
デザイン研究科

学部：音楽学部  
美術学部  
デザイン学部  
人間発達学部

■ 名古屋保育・福祉専門学校 /  
保育科 介護福祉科  
■ 名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園  
■ 滝子幼稚園



「あいち  
トリエンナーレ  
2010」  
と  
「名古屋芸術大学」  
Feature

3年に一度の国際芸術祭、「あいちトリエンナーレ」が8月21日から始まっています。  
第一回目となるこの芸術祭に、直接的にはありませんが、  
本学もさまざまな形で参加・協力しています。  
今回の特集では、本学との係わりという観点から、あいちトリエンナーレをご紹介します。



あいちトリエンナーレ

愛知県で、3年に一度開催される国際芸術祭(トリエンナーレ)。第一回目は「都市の祝祭 Arts and Cities」をテーマに、栄(愛知芸術文化センター)、白川公園(名古屋市美術館)、長者町、納屋橋など、名古屋市内のさまざまな場所で、国内外130組以上のアーティストによる、現代美術・ダンス・演劇などの現代アートが紹介されます。多くの作品が、このトリエンナーレのために準備された新作、日本初演の物で、アートの最先端を体験することができます。美術館の中に留まらず、日常の都市の中に出現するアート作品、街が丸ごとアート空間になる、まさに「都市の祝祭」となっています。8月21日~10月31日までの開催となります。





## → 蔡國強氏の火薬絵画制作に 学生たちが協力

中国を代表する現代美術作家として国際的にも評価の高い、蔡國強氏のあいちトリエンナーレ出品作品の制作に、本学が協力しました。8月17、18日の2日に及ぶもの、17日には、愛知県美術館で下絵の制作、18日には本学体育館で、下絵に沿って火薬を配置、爆発させ絵画を完成させる作業が行われました。本学美術研究科院生9名と美術文化コースの学生7名は、それぞれ制作支援ボランティアスタッフ・運営支援ボランティアスタッフとして両日共にプロジェクトに参加、制作作業に加わりました。

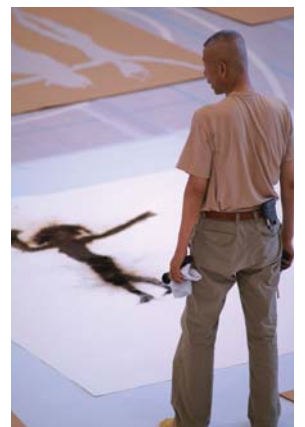
17日、愛知芸術文化センター10階の愛知県美術館では、巨大な水槽が用意され、その中で泳ぐ人物と魚の影をライトで和紙に投影、下絵が描かれました。18日は、作製された下絵を体育館へ持ち込み、ボランティア・スタッフが、下絵に描かれた人物や魚をダンボールの厚紙に添って切り抜き、くりぬいたダンボールの型を下絵に当てて、その型の中に火薬を撒き、さらに、撒かれた火薬の上に切り抜いたダンボール型を置き、その上をシートや厚紙で覆い、点火するという作業となる。

当日の制作作業は、火気を扱うため、原則非公開で、制作スタッフとトリエンナーレ関係者、愛知県政記者クラブ・中部芸術文化記者クラブの報道関係者、本学の教職員及び学生の希望者のみに公開されました。午前10時から準備作業が始まり、作品が完成したのが夜の10時と、長時間にわたる作業となりました。気温37度にもなる炎天下の体育館で、薄い紙や火薬を扱うため、1階部分は窓も開けられず、蔡氏にも、ボランティア・スタッフにも、過酷な条件となっていました。集中力を途切れさせることもなく、作業に打ち込む姿が印象的でした。できあがった作品は、火薬を使い爆発させるという手法からイメージするものよりも繊細で、和紙を焦がすといったもの。火薬の種類と量を巧みに調節し、濃淡と、黒～茶への色彩のある、水墨画のような瑞々しい作品となりました。この作品と、制作過程のビデオは、トリエンナーレの期間中、愛知芸術文化センターで見ることができます。



## → 蔡國強 (さい・こつきょう)

1957年泉州(中国)生まれ。ニューヨーク在住。爆発というエネルギーを持つ、創造と破壊という2面性から、火薬を使用した絵画やパフォーマンスを行う。万里の長城での壮大な野外プロジェクトや北京オリンピックのビジュアル・ディレクター(話題となった巨人の足跡の花火)を務めたことで知られる。あいちトリエンナーレでは、本学で制作された火薬絵画「美人魚」の他、ダンサーの軌跡を火薬で描いた「Day and Night」が展示される。  
愛知芸術文化センター 愛知県美術館  
10F A05



## プロジェクトを終えて

## → 栗田秀法 美術学科美術文化コース 准教授

本学での蔡國強さんのプロジェクトの発端は、トリエンナーレ事務局が地域の芸術大学との連携を重要な課題のひとつとしていたことにあります。今回のプロジェクトは下絵の制作と火薬絵画の制作の2部に分かれており、当初は両方を本学でということでした。重量のかかる水槽を使っての下絵制作は本学内に適切な場所がないことから、絵画制作だけになりました。小生が愛知県美術館にいたこともあって大学と県との連絡役を引き受けましたが、大学の皆さん方もいろいろ応援して下さいました。ただ、火薬を屋内で発火させる事例が愛知県では先例がなかったようで、手続き的に事務局の方は大変ご苦労されたと聞いています。実際のプロジェクトの実施に当たっては大学院同時代表現研究の洋画と版画の院生を指導の先生からご推薦いただきました。世界的な作家と一緒にアシスタントとして過ごした二日間は肉体的には大変だったかと思いますが、大いに刺激になったのではと思います。ともかく無事終わり、皆さんに喜んでいただけたようでもあり、ほっとしています。



## → 本学制作支援ボランティアスタッフの感想

### 大学院美術専攻同時代表現研究（版画） 2年 新海文子

大がかりなドローイングを経て、大学の体育館で火薬絵画制作が始まりました。8月18日の体育館はとても暑く、私たちは汗を拭きながら制作を進めました。蔡さんが巨大な段ボールの人型を使って、紙の上に何種類もの火薬をまるで絵の具のように置いていきます。いよいよ導火線に火が点けられると、一瞬で絵画全体に火が回りました。私たちは紙の焦げる匂いの中で、残り火が燃え広がらない様に、ドラえもんの手のような布を丸めた物で消火していきました。一つ一つの作業が、蔡さんの経験により考え出されたものなのでしょう。それを手伝う事で、一連の特殊な制作を体験することができました。作品自体ではありませんが、セッティングやドローイングも作品の半分だと感じました。様々な素材を使ってみたくて思っている自分にとって興味深い数日でした。そして、この夏一番の熱い思い出となりました。

### 大学院美術専攻同時代表現研究（洋画） 1年 前川宗睦

蔡國強氏のプロジェクトに参加してまず驚いたことは、そのプロセスの無駄のなさです（下絵をトレースしたトレーシングペーパー、それを元にしたダンボール型、くり抜いた型と、その枠紙の全てを火薬画の制作に利用する）。しかし、逆に言えばプロセスの無駄のなさは、作家にとって確実性を高めることに繋がっていることと思います。また、蔡國強氏は、あえて、あの場で初めての試みを組み込みました（水槽にライトで光をあて、紙にモデルさんと魚の影を映し出し、静止できない影の形を木炭で映し出すという下絵の制作方法）。こうしたことにより、作家の予想外の結果を生み出しました。そのような失敗の可能性を孕んだことを、国際展の公開制作という場で行うことが、とても驚異的なことだと思いました。

蔡國強  
火薬画制作支援スタッフ9名

大学院美術専攻  
同時代表現研究（版画）

2年 新海文子  
2年 山口恵味

1年 大野有香里  
1年 門田矩幸

1年 高木綾

大学院美術専攻  
同時代表現研究（洋画）

2年 若山瞳  
1年 浅井雅弘

1年 山本理恵  
1年 前川宗睦

# あいち トリエンナーレ関連プロジェクト

本学教員、卒業生、学生が  
係わる作品は数多くあります。  
残念ながら終了してしまったものもありますが、  
その一部をご紹介します。  
機会があれば、ぜひ足を運んでみてください。

→ 庄司達 展 「空間の航行」  
美術学部教授  
碧南市藤井達吉現代美術館  
(パートナーシップ事業)

竹と布を用いた「空間軸の内と外」のシリーズによる新作。40年余の作家活動を振り返る、布による作品の原点ともいえる「白い布による空間」シリーズなど過去の小作品、各地で行われたインスタレーション作品についても、模型や写真によって紹介。10月3日(日)まで

→ キッズトリエンナーレ  
版画コース、  
アートクリエイターコース学生

愛知芸術文化センター 8Fにデスタジオがオープン。子どもたちが自由に参加し、アートと出会い、アーティストと交流、創造性を育むための企画。日替わりで、さまざまなアーティストが講師を務め、ワークショップを開催。10月2日、3日は、本学 版画コース、アートクリエイターコースの学生が、消しゴム版画を使いオリジナルエコバッグを作るワークショップを催しました。

→ 秋吉風人氏  
本学 洋画コース卒業  
愛知芸術文化センター  
愛知県美術館 8F A26

金色の油絵の具だけで空間を描く作品「Room」シリーズと、油絵の具を積み上げて山形に盛り上げた立体「A certain aspect (mountain)」を展示。

横山豊蘭氏 「edition3」  
本学 洋画コース卒業  
YEBISU ART LABO  
(パートナーシップ事業)

作品名「脳」千字文2010  
(C)YOKOYAMA HOURAN 2010  
「脳」を真上から見た画像を、千字文(書)によって表現しました。  
8月20日(金)~9月20日(月)

→ 岩井義尚 「作品展2010」  
美術学部教授  
名古屋芸術大学 アートスペースT.A.G IZUTO  
(パートナーシップ事業)

立体とレリーフの最新の作品を展示。  
9月5日(日)~9月14日(火)

→ 名古屋芸術大学  
伏見地下街ギャラリー

地下鉄東山線伏見駅栄方面行きホームから直接繋がる伏見地下街に本学ギャラリーを設置。デザイン学部の各コースの紹介展示を毎週週代わりで展示。名古屋デザインウィーク、特別客員教授萩原修ディレクション展別会場、デザインレビュー展、卒業制作展別会場として、さまざまな企画展を行う予定もある。



### 美術文化コース 2年 高山麻友

授業で蔡さんのことを初めて知った時、「なんて大胆な人なんだらう。」と感じました。やることも火薬を使うし、今まで見たことないアーティストだったので実際に会えるのが楽しみでした。一日目のドローイングの作業、二日目の火薬画公開制作でのボランティアはとても大変でした。暑い中長時間にもおよぶものでした。しかし、全裸で水槽の中を泳ぐモデルさんの姿はとて幻想的で美しく私の想像を越えました。また暑い中やった火薬画は実際点火されると迫力があり私も一緒に楽しむことができました。仕上がった作品は火薬で描かれたとは思えないもので、まるで水墨画のような感じを思わせる作品となりました。この作品に少しでも携われて嬉しく思いました。実際に蔡さんと会うと気さくに声を

かけてくださるなどとてもフレンドリーな方でした。しかし、作品を制作する姿をみるとやはりダイナミックでした。制作している段階から私たちを楽しませてくれる凄いアーティストだなと実感しました。貴重な機会に携われて本当によかったと思います。

### 美術文化コース 2年 吉田まどか

蔡さんのプロジェクトに参加して良かったことは、普段なら絶対に体験させてもらえないようなこと（制作段階を間近で見たこと）です。これからの私の人生の中でもとても貴重な経験になると思います。蔡さんが要求することに対して素早くて確にそのことを行い、常に作業をスムーズにできるように心がけているスタッフの方々の姿や、制作をやり遂げる姿がとても印象的でした。

### 美術文化コース 2年 清水未麻

制作現場やトリエンナーレのスタッフさんたちと同じ目標で、仕事は違っても頑張れたことで、自分にとって大きな経験となりました。このプロジェクトに参加できて、今まで経験したことがないことがたくさん学べました。全て自分のためになることばかりだった気がします。参加できてすごくよかったです。

### 美術文化コース 2年 小栗雄太

舞台の裏側に参加することにより、作家の苦悩やスタッフの仕事垣間見ることができました。このことは、自分の将来についても影響することだろうと思います。どんな有名なアーティストでも、悩んだり物事にぶつかったりするという。また展示までの過程の大変さを、強く感じました。

### 美術文化コース 2年 角谷紗裕美

作家をしっかりサポートするという意識をもって行動したり、考えることが出来ました。この経験で得た知識や意識は、将来役に立つはずだと思います。制作過程を間近で見て、作品の完成に立ち会うということは凄く貴重な体験です。完成された作品をただ鑑賞する時には分からなかったことを、制作過程を見ることが知ることができました。

### 美術文化コース 2年 村田茜

このプロジェクトを通し、他者とのコミュニケーションの仕方を学んだ気がします。大勢の人が関わってプロジェクトをやりとげることの大変さと苦勞、傍目から見ていただけではわからない、壮絶な内容に頭が下がると感じました。本当にいい経験になったと思います。

### 美術文化コース 2年 山崎羽衣子

プロジェクトメンバーとして公式に認定していただけるなど、自分がお手伝いしたことが記憶だけでなく形として残るものになったことをとてもうれしく思います。実際に作品ができていく過程を間近で見ることができ、その中でプロジェクトに関わる数多くの方たちと接し、繊細なこだわりが作品に投影されていく様を見られたことは素晴らしいかったです。本当に皆さんの人が様々な形で携わり、それぞれのこだわりを発揮しているということを実感しました。



# Entexit エンタジット

## 【内定をもらうまで】

デザイン学部デザイン学科  
インタストリアルデザインコース4年  
太田 尚文



## 出来るだけ多くの企業のインターンシップに参加し、現場の感覚をつかむ!

高校生のときにテレビでカーデザイナーの仕事を知り、この仕事に就きたいと考え、本学を受験しました。大学に入ってから、教養を早い時期にとれるだけと課題に集中できるように準備をしました。2年の夏、最初はプロのスケッチなどの真似から始めました。そして、春に企業のインターンシップに参加し現場の雰囲気に触れることで、現段階の自分レベルや全国と同じ目標の学生と出会うことで刺激をもらい意識が変わってきました。

3年になると課題が忙しくなる一方で、7月からインターンシップの情報が入ってくるようになり、そろそろ就職活動が本格的に始まるのを実感しました。出来るだけ多くの企業のインターンシップに応募し参加したことで、現場の雰囲気やアドバイスなども聞いてとても参考になったことを覚えています。そこでの学んだ経験は、普段の課題を進める上でも役に立ちました。

そして3年の冬には早くも採用実習の情報がはいつてきて、片っ端から応募するため、1年から3年の間に制作した作品をファイルしたポートフォリオと事前課題を次々と作り上げていきました。この時期が一番ハードでした。

採用実習の時、周りの学生や雰囲気にも圧倒され、緊張と時間に追われながらも課題を完成させるだけに集中しました。採用実習に行きつづけたことは、企業は完成した作品よりも、それに引き着くまでの過程を重視していることです。要はコンセプトから完成までの過程の説明で、より相手を納得させることができるかが重要だと感じました。

就職は自分自身の人生の大きな分岐点だと思います。内定をもらうまで、いろいろなプレッシャーや苦勞がありました。好きなことなので続けることができました。社会状況が不況でも、そうでなくてもあまり関係ないと思います。なぜなら、デザイナーになったとしても他人に埋められないように「常に努力をしないとイケない」と思っているからです。就職活動においても常に選ばれのために努力することが一番重要だと思います。

## 2011年度の入試日程(本年10月以降の出願分)

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	推薦入試	10月 6日～10月29日	11月 6日	11月12日	
	3年編入試(前期)	10月 6日～10月29日	11月 6日	11月12日	
	3年編入試(後期)	1月 7日～1月24日	2月 6日	2月10日	
	A日程入試	1月 7日～1月24日	2月 5日・6日	2月10日	
	特待生入試	1月 7日～1月24日	2月 6日	2月10日	
	B日程入試	2月16日～3月22日	3月25日	3月26日	
	研究生入試	1月28日～2月 8日	2月14日	2月22日	
■ 大学院音楽 研究科	推薦入試	10月14日～10月28日	11月 7日	11月12日	
	3年編入1期入試	10月21日～11月 4日	11月13日	11月19日	
	社会人入試	11月18日～12月 2日	12月11日	12月17日	
	社会人シニア入試	11月18日～12月 2日	12月11日	12月17日	
	地域入試(浜松)	11月18日～12月 2日	12月11日	12月17日	
	A日程第一方式(セ、プラス)	1月11日～1月25日	2月 5日	2月10日	
	A日程第二方式(一般)	1月11日～1月25日	2月 5日	2月10日	
■ 美術	センター利用入試(前期)	1月24日～2月 7日	センター試験のみ	2月18日	
	3年編入2期入試	1月27日～2月10日	2月19日	2月25日	
	B日程第一方式(セ、プラス)	2月18日～3月 4日	3月15日	3月17日	
	B日程第二方式(一般)	2月18日～3月 4日	3月15日	3月17日	
	センター利用入試(後期)	2月18日～3月 4日	センター試験のみ	3月17日	
	I期入試	10月21日～11月 4日	11月13日	11月19日	
	II期入試	1月27日～2月10日	2月19日	2月25日	
■ 大学院美術 研究科	研究生入試	1月27日～2月10日	2月19日	2月25日	
	研究生入試	2月18日～3月 4日	3月16日	3月18日	
	■ デザイン	推薦入試	10月14日～10月28日	11月 7日	11月12日
		3年編入1期入試	10月21日～11月 4日	11月13日	11月19日
		社会人入試	11月18日～12月 2日	12月11日	12月17日
		地域入試(浜松)	11月18日～12月 2日	12月11日	12月17日
		A日程第一方式(セ、プラス)	1月11日～1月25日	2月 5日・6日	2月10日
A日程第二方式(一般)		1月11日～1月25日	2月 5日・6日	2月10日	
センター利用入試(前期)		1月24日～2月 7日	センター試験のみ	2月18日	
■ 大学院デザイン 研究科	3年編入2期入試	1月27日～2月10日	2月19日	2月25日	
	B日程第一方式(セ、プラス)	2月18日～3月 4日	3月15日	3月17日	
	B日程第二方式(一般)	2月18日～3月 4日	3月15日	3月17日	
	センター利用入試(後期)	2月18日～3月 4日	センター試験のみ	3月17日	
	I期入試	10月21日～11月 4日	11月13日	11月19日	
	II期入試	1月27日～2月10日	2月19日	2月25日	
	研究生入試	1月27日～2月10日	2月19日	2月25日	
■ 人間発達学部	研究生入試	2月18日～3月 4日	3月16日	3月18日	
	3年編入A日程入試	10月 6日～10月29日	11月 6日	11月12日	
	推薦A入試	10月 6日～10月29日	11月 6日	11月12日	
	推薦B入試	11月 9日～11月29日	12月 5日	12月10日	
	一般A日程入試	1月 7日～1月24日	2月 5日・6日	2月14日	
	センター前期入試	1月 7日～2月 1日	センター試験のみ	3月16日	
	センター後期入試	2月18日～3月 7日	センター試験のみ	3月16日	
■ 人間発達学部	一般B日程入試	2月18日～3月 7日	3月12日	3月15日	
	3年編入B日程入試	2月18日～3月 7日	3月12日	3月15日	

※(注)実施する学科(専攻コース)の詳細及びその入試については、2011 学生募集要項を参照してください。

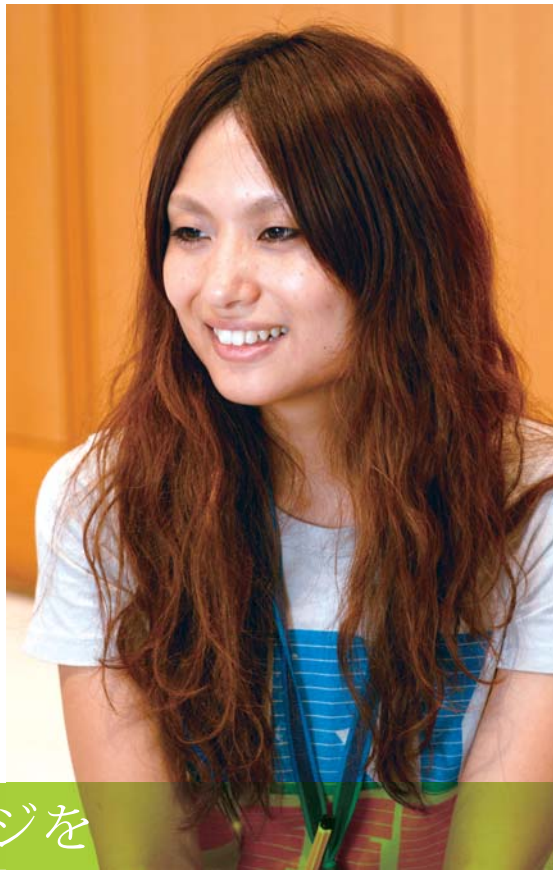
# Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

## NUA-ism



「ふらっとアニメーション」(9月4日～12日)は、初めて手がけた大規模な展覧会。近年の自主制作アートアニメーションが一望できる内容となっている。卒論はヤン・シュヴァンクマイエルだったというから得意なテーマだ。アニメーションについては再度、取り組みたいと考えているという。



Vol.25  
**NUA-OG**  
**越賀登紀子**

(こしが ときこ)  
1985年 (昭和60年)、愛知県生まれ。  
2008年 美術学部美術文化学科  
芸術環境創造コース卒業  
2008年 (財)かすがい市民文化財団に勤務。  
美術グループに所属し、春日井市文芸館  
で行われる展覧会等の企画・運営に活躍中。



隣にある市民会館とも運動した、より多くの人に楽しんでもらうような企画を考えてみたいという。施設を活用し、興行として成功させることも重要な仕事。

## もう一度、リベンジを

春日井市役所に隣接する「文化フォーラム春日井」が、今回お話しを伺った場所。巨大な円筒と直方体を組み合わせたようなガラス張りのモダンな建物で、春日井市図書館と文芸館からなる。その内部は多目的に利用できる巨大な吹き抜け構造となっており、空中庭園までであるという。隣には、座席数1,145席の大ホールを備える市民会館があり、コンサートや演劇、発表会などにも利用されているとのこと。これほど充実した施設が、この場所にあることを恥ずかしながら知らなかった。お勤めする「かすがい市民文化財団」は、この文化フォーラム春日井の2階にオフィスを持ち、これらの施設の運営管理、また、これらで行われる舞台、美術展覧会の招致、企画、運営を行っている。取材の日には、アニメーションの上映と原画・絵コンテなどの展覧会「ふらっとアニメーション」が開催されていた。奇しくも、初めての自分の企画、自分で手がけた大規模な展覧会という。

初めての大きい仕事、実現したことに感慨もあるのではと感想を聞けば、「難しかったですよ……。」と表情が冴えない。



父親が絵画を趣味とする、美術に囲まれた環境で育った。父と一緒に絵を描くことは、ごく自然なことだった。しかし、



いつの頃から「絵って、描くだけじゃないな。」ということに気が付いたという。「絵のそばにいる人が、じつは一番楽しいんじゃないかって。」

本人の言によれば「自分の力量では、創る側にいる人にはかなわない。」と謙遜するが、プロデューサー的な志向に目覚めていったのだろう。

美術を専攻する学生なら、すぐにピンと来るであろうが、専門だった芸術環境創造選択コースは、アートを社会に伝えるための方法を学ぶコース。展覧会の企画・運営は、大学時代に学んだことそのものだ。学んだことを活かせる仕事を、羨ましくも生業とした。学生の頃の経験は、企画の立案に役立っているという。今でも、時折、その頃作ったノートは、構想のネタ元として、大切にしているという。しかし、当時、授業は楽しくなかったという。むしろ嫌いだったと話す。「企画が苦手だったんです。みんなでやり遂げるプロセスと充実感に支えられてやってきたん

ですけど、やっぱり企画が苦手で…。」それでも「絵のそばにいる仕事」の魅力に取り憑かれ、今に繋がっている。そして、好きなことを仕事に選んだ、楽しみと責任と共に。



アニメーションの展覧会は、メディアからの問い合わせも多く、上手く行っているかのように見えた。しかし、思うほど来場者は増えていないという。「出すものが少し違ったのかもしれない。客層がちがったのかも。通常、この施設を利用される人たちよりも若い層を呼び込もうと思っていただけなのですが…。」と日程半ばにして、反省を口にし、冴えない表情を見せる。実社会に出れば、とかく学生時代を懐かしく美化してしまいがちなものだが、彼女の場合、連綿と繋がっているように感じさせる。取り組んだ苦労や辛ささえもだ。課題に取り組み続ける渦中の人なのだ。

「アニメーションの展覧会、もうちょっと期日を空けて、リベンジしたいですね。」本物になるには時間がかかるもの。悩みながらも進んで行く姿に、心からのエールを送りたい。



## 「絶対イヤ!」が、始まりなんです

「絶対やらない! やりたくない!!」と  
思っていたことを、気が付くと選んでる  
んです。」

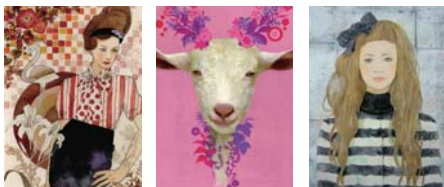
幼い頃から絵が好きで、小学生の頃には  
友達から頼まれマンガやアニメのキャラ  
クターを描き喜ばれていた。人に喜ば  
れる楽しみに目覚め、中学の頃には画家  
になりたいと、本格的なレッスンを受け  
るようになっていた。高校も美術科に進  
学、一通りの基礎を経験した。そんな中  
で出会ったのが日本画。岩絵の具、膠、  
和紙…、自由にならない素材に嫌気がさ  
したようだ。ところが、大学では日本画  
を学びたいと思ったという。「あんな面倒  
なものは絶対いや、と思ってたんですけ  
どね…」ところが、受験直前になり、日  
本画ではなくデザイン科に願書を変更し、  
デザイン科に進む。「デッサンしか練習し  
てこなかったで、デザイン科では、慣  
れないことばかりで苦労しました。」

デザイン科で今や必須ともいえるパソ  
コンは今も大の苦手。広告の課題も頭痛  
の種だった。それでも、「嫌い」をなんと  
かして乗り越え自分のものにするようだ。  
現在は内定をもらった広告代理店で苦手  
なDTPの勉強に励んでいると笑顔で話す。  
「絶対イヤ、と思ったとき、どういうわけ  
か、好きになるまでちょっとやってみよ  
うと思うんです。向き合おうとしての  
のかな。」

ジャンルを移り変わっているようで、  
全く変わっていないのが絵への思い。悩  
んだときでも、とりあえず描いてみるこ  
と、手を動かすことで、乗り越えてきた  
という。「絵が大好き」という一途さは、  
全くブレずにいるようだ。



Vol.26  
**NUA-STUDENT**  
**谷しおり**  
(たに しおり)  
デザイン学部 メディア&コミュニケーションプロク  
イラストレーション選択コース4年



目下のところの将来の希望は、アートディレクターになること。「全部自分でプロデュースして、作品のとりまとめができるようになりたいです。」就職は、広告代理店。すでに研修で実践的なことをやっているとのこと。

【先生からのひとこと】 絵を描くことを天性として生まれてきたような谷しおりさん。何にでもチャレンジし、きちんと結果を出し、さらに先に進んでいく姿は、とても美しく、誇らしく思えます。新しい世代の担い手として、何かを作り出す価値、生きる原動力を示してくれます。厳しい現代ですが、楽しく素敵なもので満たしてください。  
(デザイン学科イラストレーション選択コース准教授 祖父江博史)

## 「なんでもやりたくなっちゃうんですよ」

前期のカリキュラムで始まった課題が、  
9月に入っても終わらない。「外部の人と  
コラボレーションして、何かを作るとい  
う課題なんですけど……。」できあが  
たのは、なんと「銭湯体操」というビデオ。

銭湯でのマナーを歌い込んだ体操の映  
像で、曲作りと歌を担当、出演もしている。  
なにゆえ「銭湯」? 「体操」?? 疑問  
符ばかりが頭に浮かぶ。

「パツとひらめいて、西春にある末広温  
泉という銭湯へ行っただです。はじめは、  
看板なんかを直したいなと思っていたん  
ですけど、銭湯のご主人が面白い方で、  
銭湯を盛り上げて欲しいという話になっ  
ていって。それから最近では、銭湯のルー  
ル、タオルを湯船に入れちゃいけないと  
か、そういうことが守られなくなってい  
て困るけど、お客さんだし強しくは注意で  
きないという話を聞いたんです。それで、  
やんわりと伝えて、尚かつ、銭湯が元気

になるように体操を作ろうと。」



なんだかかなり強引な気もするが、で  
きあがった映像は大いにウケた。何より、  
銭湯のご主人が喜んでくださり、県下の  
銭湯の組合、愛知県公衆浴場業生活衛生  
同業組合に見せるように薦めてくれた。

訪ねて見てもらうと、さまざまなブ  
ラッシュアップ案が出され、体操の振り  
付けを直し、民謡上手な歌手で再レ  
コーディング…、と多くの人を巻き込み、  
単なる課題の枠を超えて転がり始めた。

初対面の人でも物怖じしない人柄と行  
動力が、周囲の人を取り込んでいく面白  
さ。「勢いだけです。自分が一番楽しん  
じゃってますし。」と笑うが、人に巻き込  
んでゆく不思議な引力があるようだ。

【先生からのひとこと】 富士井遊さんは、メディアデザインコースで、各種のプロジェクトや映像作品を積極的に制作しています。与えられた条件をじっくりと分析し、グループで話し合っで形にしていけることがとてもまいと思います。特に取材される相手の多様な要素を引き出すことに長けていますね。これからも柔軟な思考と行動力で面白いコンテンツをたくさん作って行って下さい。(デザイン学部デザイン学科准教授 津田佳紀)



Vol.27  
**NUA-STUDENT**  
**富士井遊**  
(ふじい ゆう)  
デザイン学部 メディア&コミュニケーションプロク  
メディアデザイン選択コース4年



卒業制作もユニーク。ごく普通の街の人々に、夢ややりたいことを聴き、後日、それを叶える変身スーツを作製し着てもらう。このやり取りの一部始終をビデオに収める。「最終的には自分の変身に繋がればいいですけど……。」

## 音楽学部

### 聴く・弾く・体験する——“音楽”満載の一日! オープンキャンパス2010 未来の私に出会える、そんな予感の一日。

音楽学部では、7月18日(日)、オープンキャンパスを開催しました。午前10時の受付前から高校生や保護者など多くの参加者が訪れ、さまざまなイベントを楽しみました。在校生の案内によるキャンパスツアー、教員による模擬授業や公開授業、公開レッスンなど豊富なメニューから、思い思いに校内をめぐる見学、体験をしました。

東キャンパスの1号館～11号館で、さまざまなイベントが開催されました。3号館ホールでは、恒例の電子楽器コースによる「名芸ブチ・コンサート」を開催し、練習の成果を披露。「情熱大陸」「い

つか王子様が」など11曲が演奏されました。

また同じ場所で午後からは、ステージにグランドピアノ4台を設置し、音色やタッチなどの違いを紹介するモデル演奏が山田敏裕教授により行われました。ヤマハ、ベーゼンドルファー、スタンウェイそれぞれのピアノについて説明し、リストの「愛の歌」「愛の夢」「献呈」を演奏。観客は、その音色にうっとりとしきり入っていました。その後、コンサートピアノ試弾会が行われ、参加者はピアノのタッチの違いを体験しました。

2号館のロビーではライブコン



サート「Spotlight」を開催。学生バンドと教員バンドが出演、歌やダイナミックな演奏に、観客から拍手や声援がわき起こりました。

音楽ビジネス演習室では、模擬授業、サウンド・メディア体験学習、音楽療法体験学習、弦・管・打楽器のワンポイントレッスン、公開レッスンなどが行われ、楽器を手にした高校生たちが行き交う

姿が見られました。

ミュージカルスタジオでは、ミュージカルコースやジャズ・ポップスコースの学生によるライブコンサートが開催され、躍動感あふれるステージを披露しました。入試相談コーナー、学生支援コーナーでは、高校生と保護者の方々の質問や相談に、教員が回答やアドバイスをを行いました。

## 音楽学部

### デューク・エリントン楽団トロンボーン奏者 スタフォード・ハンター氏による公開講座 が行われました

2010年6月24日(木)、東キャンパス2号館大アンサンブル室において、デューク・エリントン楽団トロンボーン奏者スタフォード・ハンター氏による公開講座が行われました。この講座は、音楽文化創造学科ジャズ・ポップスコースの学生のための公開講座の一つで、今回はジャズ・トロンボーンの実技指導と学生バンドとのセッション指導が行われました。

ジャズ・ポップスコース担当の野々田万照教授の挨拶とトロンボーン演者の学生2名の紹介の後、講座が始まりました。

ハンター氏は「十数年デューク・

エリントン楽団に所属し、楽団が家族のような存在になっている。演奏に関してこれまで楽団で多くのことを学んできた。現在では、楽団で学んだ一般的な演奏を編曲し、自分自身の演奏をするように心がけている。NYにも自分のバンドをもって、アメリカ・アジア・ヨーロッパと世界中を飛び回っている。今日は、皆さんにジャズ演奏時の音の出し方、吹き方などについて指導したい。」と話しました。

ジャズ・トロンボーン実技指導では、最初にトロンボーン演者の学生2名の指導が行われ、その後、トランペット・サクソ・ピアノ・



ベース・ドラムス・コンガなどバンド全員の指導となりました。トロンボーン演者の学生には、他の楽器と協調するやり方、アドリブやバリエーションの付け方など、実演を交えながら指導されました。「ジャズ音楽はコミュニケーションが大切で、原曲のメロディーにとらわれることは無く自分の感情や感性で演奏しても良い。曲には

敬意を払わねばならないが、その通りに演奏しなければならないのではない。音楽は変えられるためにあるともいえる」という解説で、バンド全員を丁寧に指導していただきました。

最後は、学生バンドとのセッションで、D.Ellington 作曲の『Take the A Train』を全員で演奏して講座を終了しました。

## 音楽学部

### 音楽学部特別客員教授 「山下洋輔公開講座」が行われました

山下洋輔先生によるピアノ演奏で幕を開けた講座は、アフリカから奴隷としてアメリカへ渡ったアフリカ系アメリカ人の持っていた彼らの故郷アフリカの音楽と、ヨーロッパ系アメリカ人が持っていた彼らの故郷ヨーロッパで発達したいわゆる西洋音楽が出会い融合して生まれた、ジャズ音楽の起

源についての解説から始まりました。次に、ジャズ音楽の分野で典型的ともいえるスケールの一つ、ブルーノートスケールの構成と機能について、また、ジャズ音楽の成立以降、ジャズ音楽を意識して作曲され、西洋音楽の作曲家によるジャズの影響が見られる作品についての話がありました。続いて、

ビッグバン後の宇宙を音楽で描いたとされる「ピアノ協奏曲第3番《エクスペローラー》」の構成や曲中に織り込まれた様々な要素にまつわるエピソード、曲中に隠された日本人らしさを仕掛け、ピアノ協奏曲第1番から第3番の作曲にいたるまでの経緯などについて、山下先生によるピアノの実演を途中とところで

ころに交えて、様々なトピックの講義を中心に行われました。





## 音楽学部

演奏学科特別演奏会  
「コンチェルトの夕べ」「ピアノサマーコンサート」  
が行われました

名古屋芸術大学音楽学部 演奏学科特別演奏会「コンチェルトの夕べ」が2010年7月15日(木)、名古屋市中区の三井住友海上しらかわホールで開催されました。この演奏会には7名のソリストが出演しましたが、今回は一人でも多くの学生にオーケストラとの協演という体験をしてほしいということで、1曲を2人で受け持つスタイルが採用されました。また、ショパンのソリストは、学生と院生のみならず、卒業生も参加可能な

オーディションで決定されました。さらに今回は、ピアノ以外に弦部門(チェロ)からの参加もあり、多彩な演奏会となりました。

古谷誠一教授の指揮する名古屋芸術大学オーケストラをバックに、7名のソリストが日頃の演習の成果を遺憾なく発揮するすばらしい演奏を披露してくれました。ホールを埋めた満員の聴衆からは惜しめない拍手が送られていました。

また、演奏学科特別演奏会の第2弾「ピアノサマーコンサート」は、



8月11日(木)名古屋伏見の電気文化会館ザ・コンサートホールで開催されました。この演奏会にはピアノコースの前期試験において優秀な成績を収めた1年から3年までの学生23名が出演しました。J.S.バッハの「平均律クラヴィア曲

集」、F.ショパンの「練習曲」、R.シューマンやL.v.ベートーヴェン・J.ブラームスの「ソナタ」などが演奏されました。学外のコンサートホールで初めて演奏する学生にとっては、大変貴重な体験になったものと思われます。

## 音楽学部

親子できこう!! 音楽は友だちコンサート  
が開催されました

2010年9月5日(日)、名古屋市青少年文化センターアートピアノホールで、名古屋開府400年祭パートナーシップ事業の一環として、親子できこう 音楽は友だちコンサートが開催されました。

このコンサートは、生演奏の音楽に触れる機会の少ない子どもたちに、様々なジャンルの音楽を聴いてほしいという願いを込めて行っているもので、主催は、(財)名古屋市文化振興事業団と名古屋芸術大学音楽学部音楽文化創造学科

音楽教育コースです。同大の取越哲夫教授は、永年、僻地の子どもたちに生の音楽を聴かせるための演奏会を続けてこられ、その実績が高く評価されて、このコンサートに継承されています。出演は同大の学生、大学院生、研究生、卒業生などが中心で、一部教員も加わっています。

取越教授の司会により今回のプログラムは、合唱からスタートし、ピアノ独奏、ファゴットアンサンブル、ピアノ連弾、テノール独唱、



そして、ハンドベル、木管五重奏、マリンバの各演奏でした。

休憩をはさんだ第二部は、最初に日本古来の音楽である雅楽が演奏されました。笙や箏の優雅な音色が場内に響き、時を忘れるひと時でした。続いて、ピアノ独奏、

打楽器アンサンブル、ヘンゼルとグレーテル(オペラの紹介)で、最後は、電子オルガンで奏でる映画音楽の世界が演奏されました。

会場を埋めた親子ずれや関係者から盛んな拍手が送られていました。

人間発達  
学部特別公開講座  
「子どもが育つ条件—子どもとおとなの発達」

7月31日(土)午後3時より愛知県女性総合センター ウィルホールにおいて、2010年度 名古屋芸術大学人間発達学部 特別公開講座「子どもが育つ条件—子どもとおとなの発達」が開催されました。これまでの講座では、幼稚園教育要領や保育所保育指針の改正に関する話題を取り上げてきましたが、今年度は、子育てそのものについて考える機会とすることになりました。そこで、東京女子大学名誉教授の柏木恵子先生を講師としてお招きし、広い視点から親子関係や家族関係に関するお話を伺いま

した。猛暑の中、学内外より約450名が参加し、講演後には熱心な質疑応答がありました。

講演は、「発達」のルートについてのお話から始まりました。子どもは、母親によって育てられるだけではなく、周りの大人の言動を見て学習し、自ら育つ存在でもあるため、子どもの発達には、複数養育が重要な役割を果たすというお話が印象的でした。

次に、子どもが育つために必要な、発達環境についてお話いただきました。単に多くのモノを一方的に子どもに与えるだけでなく、

その子どもが現在興味を持っている事柄に対して、周りの大人が応答的に関わったり、子どもの発言や行動を周りの大人が認め、肯定的に関わったりすることが必要だということです。

育児不安のメカニズムについても、触れていただきました。それは、子育て中の自分に対して母親がストレスを感じることに一因があり、配偶者との関係や母親自身の育児観によって増大するとのことでした。心の余裕を持って子どもと関わるためには、子どもの発達とともに親も発達して行くことが必要だと考えさせられました。

講演の終わりにご紹介いただきましたヘア・インディアンの子育て

では、周りの大人が子どものしていることを楽しみ、子どもは周りの大人をモデルとして成長するという、現代の日本の文化では見失いがちな、子育ての楽しさの原点があると思いました。



## 人間発達 学部

### 2010年度 オープンキャンパス 8月29日(日)開催!

人間発達学部で8月29日(日)、今年度2回目になるオープンキャンパスが開催されました。高校生だけでなく保護者も大勢参加し、校内見学や模擬授業を受けるなどして、真剣に将来の進学への第一歩を確認しているようでした。

#### 創造は教育の原点を模擬授業で実感!

午前10時から東キャンパス1号館7階アッセンブリーホールで学部説明会が開かれました。学部の概要や授業の内容、学生生活などがスライドを使って説明、引き続き在校生たちが模擬授業や体験メニューを説明しました。

ホール前の7階ロビーには相談コーナーが設けられ、受験やその後の大学生活、下宿などについての相談を受け付けました。

模擬授業①「色彩を楽しむ」では、18色のトーンカラー(色

紙)を使って、季節感を表現、模擬授業②「遊びから学ぶ」では、社会科学習の中で使う日本列島のジグソーパズルを体験しました。

1号館3階では模擬面接体験も行われ、本番の面接と同様、学生3人に面接官3人の対面式で行われ、面接官からの質問に一人ずつ答えていきました。まもなく推薦試験も行われる時期でもあり、体験希望者が緊張した面持ちで臨んでいました。模擬面接を体験することで、大学の面接の傾向がわかったと話す生徒もいて、保護者と本番に向けて対策を話している場面もありました。

#### 授業の楽しさを先輩たちから伝授

模擬授業の他に、ゼミやサークル、有志たちで体験コーナーが設けられ、参加者たちは思い思いの体験をしました。



音楽活動をしている高校生に人気だったのが、「コンピュータで音・音楽を楽しむ」のコーナー。ここでは、コンピュータを使って、音符をデスクトップに並べたりキーボードから音を入力したりして作曲をしました。

2階ロビーでは「乳幼児の機能の発達を授けるおもちゃ」と題し、モンテッソーリ教具の展示と説明が行われました。木や手作りのおもちゃが乳幼児期から幼少時と発達段階に分けて紹介されました。

自然と暮らしを楽しむ会(サークル)主催のコーナーには、野菜スタンプと小麦プレスレット作り、

葉拓アートの体験が用意されました。野菜スタンプでは、れんこんやおくらなどの野菜が用意され、絵の具を塗って画用紙にデザインを作っていました。

「小麦粉粘土の造形と創作活動」、「折り紙・お絵かきコーナー」、「子どものお菓子づくり」は、在校生が授業で学んだことを生かし、参加者たちに楽しく体験してもらおうと工夫をしていました。

このほか、吹奏楽部の演奏も行われ、参加者たちは学生食堂にて手作り家庭的な味が自慢のランチにも舌鼓をうち、プチ大学生活を満喫している様子でした。

## 美術学部

### デザイン学部

### オープンキャンパス2010 未来の自分を体験編!! サマー編Ⅱ 7.18実施

#### 未来はデザイナー?アーティスト? “芸大”の授業を体験する ワークショップ

夏らしい強い陽射しのなか、西キャンパスに集まった高校生たちは、受付を済ませるとスケジュールが書かれた案内や校内の地図を見ながらお目当ての場所へと向かいます。キャンパスツアーの出発を待つ人もいて、迎える在校生もちょっと緊張した面持ちです。

今回のオープンキャンパスは、アート&デザインワークショップでさまざまな体験ができるのがポイント。デザイン学部では、コンピュータを使ってデジタルアニメーション制作をする「デジタル映像制作」、雑誌モデルのようにポーズをきめてデジタル一眼レフカメラで撮影しその場でフォトプリントを作成する「フォトコミュニケーション」、世界に一つだけの指輪を作る「シルバーリング制作」「似顔絵体験」「カレンダー制

作」など、さまざまなワークショップが開かれました。

プロダクトデザイン入門「デザイントレイの制作」では、描いた下絵を写した木を電動糸鋸でカーブに注意しながら切り抜き、真空成形機を使ってプラスチックに型どりする工程を体験していました。どの工房も、在校生や技術員が道具の使い方を指導し、参加者は、初めて見る道具の使用方法を学びながら真剣に取り組んでいました。

美術学部では、カップや器、皿などさまざまな大きさで好きな作品をつくるろくろ体験をはじめ、ガラス素材を使っての造形や、溶けたガラスがどのようなかを体験するなど、遊びを取り入れてアートの世界に触れました。

また、ゆったりとしたカフェ空間で作品を鑑賞したり、美術情報を検索したりできるアートカフェもオープン。校内めぐりのあいまに、ドリンクとクッキーで一休み



し、アートについて語り合ったりしました。

#### クリエイティビティ全開、 在校生の作品から未来が見えてくる!

大学情報の発信の場となった体育館では、国際交流コーナー、進路・入試情報コーナー、就職コーナーなどの一角と、美術学部の工芸・日本画・彫刻・洋画・アートクリエイターの各領域の相談コーナーやギャラリー、アートワークショップがありました。作品を熱心に見る人、作品づくりを楽しむ人、また相談コーナーで自身のデッサンにアドバイスを求める人などの姿が見られました。

大学内では、入試参考作品や各

コースの学生が実技課題で生み出した作品の数々を展示した企画展「スチューデントギャラリー」が開催されており、大学生の実際の作品にふれることができました。参加者は作品を細部まで観察し、在校生に質問するなどして作品を鑑賞しました。

また、アート&デザインセンターでは、メタル&ジュエリーデザイン、テキスタイルデザインの課題作品が「素材展」として展示されたほか、教員による「教員展」が和室を利用して開催され、趣向を凝らした展示内容に参加者は目を見張っていました。

## デザイン学部

特別客員教授 檜原由比子氏公開講座  
「空間を創り出すイメージの世界」  
—資生堂のウィンドウディスプレイと共に—

2010年7月27日(火)、株式会社資生堂のアートディレクター・クリエイティブディレクターである檜原由比子(ひはらゆいこ)氏をお迎えし、資生堂のウィンドウディスプレイについて、また檜原氏ご自身のデザイン活動について、デザイン学部ビジュアルデザインコース・イラストレーションコースの学生を中心とした公開講座が行われました。

資生堂のウィンドウディスプレイ  
から時代を読む

檜原氏は、まず現在の銀座と資生堂のウィンドウを紹介。そのなかで1916年(大正5)の自社ウィンドウ創設から1960年(昭和30)にかけての時代を、「テレビなどの伝達手段が少ない時代、資生堂のウィンドウの最大の役割は、アピールし伝える街の広告としてのメディア。そして、お店のイメージを創るメディア。さらに、街のイメージを創り出す存在だった」と説明しました。

さらに、1960年代は高度成長期を迎え、テレビなどが普及し、企業がブランド戦略によって購買力を拡大した時代。資生堂は、1961年から商品や情報を戦略的に発信していく「キャンペーン」を誕生させたといえます。

1960年代の資生堂の新しい2つのウィンドウとして、1962年(昭和37)に資生堂会館(資生堂パーラービル)落成、1966年(昭和41)には資生堂本社ビルが落成しました。本社・パーラー共に、ビル正面の3分の2をウィンドウスペースとし「動き」「光」「質感」「リズム」など新しい視覚表現も取り入れ、五感のメディアとして限らない魅力で発信。ダイナミックに街と共鳴しはじめたということです。

資生堂本社ビルでは、当時日本最大といわれた2.5m×9.5mの一枚ガラスの大型横長ウィンドウが誕生。キャンペーンと連動して使用されました。資生堂パーラービ

ルでは、多方面から鑑賞できるウィンドウに現代アートを取り入れ、銀座に新しい風を送りはじめました。檜原氏は、「銀座が輝き続ける魅力の一つとなり、1962年から街と企業の新しい共存がスタートした」と話します。1975年(昭和50)になると、ザ・ギンザビルが開店。セレクトショップの先駆けとなります。

続いて1990年代に入ると、戦争やテロなどで社会不安が広がり、また環境意識の高まりや、企業の社会的責任が大きく問われる時代となります。資生堂は1997年(平成9)の研修施設(エコールドハヤマ)新設以降、2000年をまたぎ本社ビル、東京銀座ビルが改築、本社機能も移転。ウィンドウも施設の目的、環境に合わせたコンセプト重視の表現に変わり、企業のメッセージを伝える新たなメディアとして再発信しはじめたということです。

街と共鳴し、社会性をもった  
ウィンドウを創出

檜原氏は、自身のウィンドウ作品をコーポレートメッセージ、街との共鳴、企業のアイデンティティー、社会性の4つのテーマに分けて紹介。その中でコーポレートメッセージということから、エコールドハヤマのウィンドウディスプレイを紹介しました。エコールドハヤマのウィンドウは、2008年10月～2009年4月までディスプレイされた『絆』が2009年に社団法人日本ディスプレイデザイン協会(DDA)の「ディスプレイデザイン大賞2009」を受賞しています。

檜原氏がイメージを創り出すときのポイントは、「1 目的・環境を、常に年頭に置く」「2 自分のフィルターを通すことで、イメージの源泉を見つける」「3 言葉のかけらを集めて考える(キーワード)」ということ。この段階を踏んでイメージを創出することで、美しいウィンドウディスプレイへ



とつながっていきます。

ウィンドウディスプレイと街との共鳴については、「クリスマスシーズンになると、街全体が華やかに輝きそこを歩くだけで不思議な高揚感に包まれる。それが街との共鳴」と説明。ウィンドウが「時代を写し出す鏡」といわれるのは、時代と「共鳴」しているから。共鳴することで本当の意味での「伝達」が始まり、ウィンドウは折りやメッセージなどを伝えるメディアにもなるということです。

企業のアイデンティティーについては、資生堂の「花椿マーク」をデザインに取り上げたウィンドウディスプレイをいくつか紹介。本社ウィンドウ「時間・空間・人・心・資生堂」花椿マークの赤い紐のウィンドウなどが紹介されました。

次に社会性をもったウィンドウとして、現代は消費者の目が商品だけでなく企業自体に向き始めた時代である。そして檜原氏は、「企業の思想、姿勢、活動を伝えるリアルなメディア空間として、ウィンドウで新しい挑戦を始めた」と話します。

企業の社会的責任が問われる時代にあって、資生堂が現在行っている活動を一般の方に知ってもらいたいという思いがあるということで、檜原氏は、活動のシンボルモチーフとして手話や点字を取り上げました。「手話は最短で伝え

るシンプルで強い言葉の形であり、アクティブでわかりやすく美しい言葉」として、手話の魅力によってコーポレートメッセージ「共に。人と人とその間に」のイメージを伝えました。「共に。」がその当時のコーポレートメッセージです。それに、人と人とその間につけました。さらにこれは、視覚ではなく触覚で感じる表現の可能性として、「企業理念を伝える」点字ツールへ発展していきます。

## 「見えない種」の成長を願って

檜原氏は最後に、「ウィンドウは大きな時間や時代の流れの中で、一瞬ではあるが、一人ひとりとコミュニケーションが可能な社会につながる大切な窓だと思う。その場にはないと空気は味わえない。リアルにコミュニケーションできるメディアは貴重。いろいろな場所に行き、イメージの源泉を探っただけでなく企業自体に向き始めた時代である。そして檜原氏は、「企業の思想、姿勢、活動を伝えるリアルなメディア空間として、ウィンドウで新しい挑戦を始めた」と話します。

企業の社会的責任が問われる時代にあって、資生堂が現在行っている活動を一般の方に知ってもらいたいという思いがあるということで、檜原氏は、活動のシンボルモチーフとして手話や点字を取り上げました。「手話は最短で伝え

るシンプルで強い言葉の形であり、アクティブでわかりやすく美しい言葉」として、手話の魅力によってコーポレートメッセージ「共に。人と人とその間に」のイメージを伝えました。「共に。」がその当時のコーポレートメッセージです。それに、人と人とその間につけました。さらにこれは、視覚ではなく触覚で感じる表現の可能性として、「企業理念を伝える」点字ツールへ発展していきます。

「見えない種」の成長を願って

檜原氏は最後に、「ウィンドウは大きな時間や時代の流れの中で、一瞬ではあるが、一人ひとりとコミュニケーションが可能な社会につながる大切な窓だと思う。その場にはないと空気は味わえない。リアルにコミュニケーションできるメディアは貴重。いろいろな場所に行き、イメージの源泉を探っただけでなく企業自体に向き始めた時代である。そして檜原氏は、「企業の思想、姿勢、活動を伝えるリアルなメディア空間として、ウィンドウで新しい挑戦を始めた」と話します。

企業の社会的責任が問われる時代にあって、資生堂が現在行っている活動を一般の方に知ってもらいたいという思いがあるということで、檜原氏は、活動のシンボルモチーフとして手話や点字を取り上げました。「手話は最短で伝え

るシンプルで強い言葉の形であり、アクティブでわかりやすく美しい言葉」として、手話の魅力によってコーポレートメッセージ「共に。人と人とその間に」のイメージを伝えました。「共に。」がその当時のコーポレートメッセージです。それに、人と人とその間につけました。さらにこれは、視覚ではなく触覚で感じる表現の可能性として、「企業理念を伝える」点字ツールへ発展していきます。

## デザイン学部

### 2010年度特別客員教授 萩原 修氏 公開講座とワークショップ

デザイン学部では本年度前期、デザインディレクターであり2010年度特別客員教授の萩原修氏をお招きして、『日本とデザイン』調和 個性 共感』と題したレクチャー及びワークショップ『課題は「おやつどうぐ」』の中間講評会・公開プレゼンテーションを実施しました。

6月5日(土)に行われたレクチャーでは、「調和」「個性」「共感」をキーワードにお話がありました。「調和」では、曲げわっぱの形をした炊飯器、竹を使ったカトラリー、アニマルラバーバンド(動物の形をした輪ゴム)など7点の

プロダクトを紹介、「個性」では「海外にデザイナーを紹介する」ということへの拘りを、「共感」では「海外に紹介したいプロジェクト」ということでお話がありました。学生たちは目を輝かせて聞き入っていました。

6月25日(金)には、X棟ギャラリーにてワークショップの課題「おやつどうぐ」の中間講評会が行われました。ゲストとして、プロダクトデザイナーの磯野梨彰氏も参加され、萩原氏と磯野氏、本学の担当教員駒井講師の3名で、学生たちが考案中の「おやつどうぐ」の図面や作品模型を、一人ひとり丁寧



に講評しました。

7月18日(日)には、美術学部・デザイン学部のオープンキャンパス会場で、萩原修氏ワークショップの公開プレゼンテーションが開催されました。学生が2人1組になり、十分な説明と打合せをした後、それぞれ相手の作品をプレゼンテーションするという形式で行われました。楽しくおやつを食べる

道具や工夫がほどこされたパッケージなど、創造性のある作品ができあがり、萩原氏をはじめとする先生方の講評を受けました。

今回制作された『おやつどうぐ』の優秀な作品は、8月17日(火)～22日(日)まで、地下鉄東山線伏見駅の地下街にある「名古屋芸術大学伏見地下街ギャラリー」で展示販売されました。

## 美術学部 デザイン学部

### 小・中学生とシニア対象の芸大体験 『一日芸大生』開催 僕も私もアーティスト! 創造力の花開く

8月1日(日)、『一日芸大生』が開催され、220人余りが参加しました。受講生は小学校3年生から中学生と50歳以上のシニアが対象。洋画コースや彫塑・立体造形コース・スペースデザインコースなど13のコースが設けられ、参加者らは思い思いの授業を体験していました。キャンパス内の8つの棟の教室で10時半より授業が始まり、基本説明や下準備などに精を出しました。昼食は現役芸大生が考えたお弁当のおかず1つ1つが、エドワール・マネや草間彌生などの絵画にまつわる具材で作られたアート弁当として用意されました。

午後1時から午後4時まではそれぞれのコースに戻り、仕上げなどを行いました。また、保護者らも参加し、児童生徒が授業を受けている間に、大学の説明会や見学会も行われました。

- 洋画入門…洋画コース〈対象：小学生・中学生〉
- 日本画入門…日本画コース〈対象：小学生・中学生〉
- 消しゴム版画…版画コース〈対象：小学生・中学生〉
- 顔・彫刻…彫塑・立体造形コース〈対象：小学生・中学生〉
- アニメーション…メディアデザインコース〈対象：小学生・中学生〉



- 編集者体験…ライフスタイルデザインコース〈対象：小学生・中学生〉
- イスのデザインと制作…スペースデザインコース〈対象：小学生・中学生〉
- プロダクトデザイン入門…インダストリアルデザインコース〈対象：小学生・中学生〉
- ミサンガ制作…テキスタイルデザインコース〈対象：小学生・中学生〉

- ガラスアート…ガラスコース〈対象：中学生〉
- ジュエリーデザイン…メタル&ジュエリーコース〈対象：中学生〉
- 美術史…美術文化コース〈対象：シニア〉
- 陶芸…陶芸コース〈対象：シニア〉

## Column NUA No.11

### 綱渡り師にみるバランスの美

美術学部教養部会 講師 西村和泉

「綱渡り」という言葉からみなさんは何を連想しますか?おそらく「大胆さ」や「無謀」といったイメージが真っ先に浮かぶのではないのでしょうか。実際、「アクロバット」や「サーカス」という言葉が動詞として用いられる場合、大抵は無理なことを強引におこなうという意味を含んでいます。しかし、古くからサーカスを支えてきた綱渡り師の身体所作に目を向けた場合、

そのイメージだけでは説明し切れない豊かな要素に満ちていることが分かります。

今は無きワールドトレードセンターのツインタワーの間を命綱なしで綱渡りした、フィリップ・ブティというフランスの大道芸人がいます。彼は1974年当時、世界一の高さを誇っていたタワーで綱渡りをするという夢を実現した上、偶然その姿を見た人々に感動を与え、「史上最も美しい犯罪」をしたと言われました。2001年にツインタワーが憎しみの力によって破壊されてしまったのとは対照的に、彼は誰一人傷つけることなく、人々に夢と勇気を与えたのです。確かに、命

綱なしで綱渡りをすることは無謀ではあります。しかし、彼にはきわめて高度な技術とゆるぎない自信があったという意味において、「無謀」なだけでは片付けられない魅力があります。近年、フランス語圏を中心にヌーヴォー・シルク(新しいサーカス)の活躍がめざましいですが、それぞれのアーティストは、日々の身体鍛錬と微調整を欠かしません。つまり、「大胆さ」の背後には極度の「慎重さ」があるのです。「綱を落ちずに渡りきる」行為は、まさにこの「慎重さ」と「大胆さ」の絶妙なバランスの上に成り立っていると言えます(ちょうど綱があまりピンと張りすぎず、ある程

美術学部

名古屋芸術大学美術学部洋画卒業生展  
—Unique Commons  
わたしだけのみんなのもの—

2010年8月17日(火)から9月2日(木)まで、本学西キャンパスのアート&デザインセンターで、夏の企画展として「名古屋芸術大学美術学部洋画卒業生展—Unique Commons わたしだけのみんなのもの—」が開催されました。この展覧会は、1996年から

2010年までの美術学部洋画コースの卒業生25名で構成されていて、「Unique」とは固有の存在であること、「Commons」とは共有の意味を表し、「美術作品は作家特有で唯一無二の表現であり、同時に公的な共有財産である」ことをコンセプトとしています。



禿鷹墳上氏や鬼頭健吾氏など著名なアーティストはもちろん、名知聡子氏など新鋭の作家や各卒業生の代表作が展示され、見ごたえ

のある展覧会となりました。また、同キャンパス体育館では、美術学部洋画2コース原田久教授の公開制作が開催されました。

デザイン学部

インダストリアルデザインコース特別公開講座  
「モーターサイクル&カーデザインセミナー2010」  
が開催されました

9月13日(月)～15日(水)の3日間にわたって、本学西キャンパスデザイン学部X棟において、特別公開講座「モーターサイクル&カーデザインセミナー2010」が開催されました。デザイン学科インダストリアルデザインコースの主催で、名古屋地区のプロダクトデザイン学生を対象に行われたもので、7大学1専門学校及び留学生、合わ

せて33名が参加しました。ホンダ技術研究所デザイン部門のご協力をいただき、コンセプトの立案からデザインスケッチまでの講習が実施されました。テーマは「私がホンダに期待するモビリティ」で、ホンダからの5名のデザイナーに直接指導していただくことで、学生たちにとっては将来の職業選択の参考になる



と同時に、デザイン表現のスキルアップを目指した公開講座となりました。14日の講習終了後には学生懇

親会が行われ、名古屋地区のプロダクトデザイン関係の学生間の交流も図られ、実り多い公開講座となりました。

【グループ校特集】  
クリエ幼稚園

「明るく 聴く たくましく」  
どんなことも意欲的に取り組む子どもを育成

「クリエ幼稚園」は、名古屋芸術大学の前身である、名古屋自由学院短期大学附属第二幼稚園を新築した時に園名が変わりました。名前の由来は、「create」—創造する、創り出す—という意味からつけられました。園舎は、三角屋根が特徴的な木造平屋の建物で、天井が高く床はバリアフリー、六角形の部屋が蜂の巣状に連結するユニークな構造となっ

ています。園庭には、ビオトープもあり、環境の一つになっています。子ども達の遊びたい、やってみたいという気持ちを大切に「明るく聴く たくましく」を教育目標とし、どんなことも意欲的に取り組むことができる子ども達になるよう保育を進めています。芸大附属ならではの交流として、入園式や卒園式には音楽学部卒業

生の生演奏でお祝いしていただきます。また、「名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ」による演奏会、子ども向けの音楽会を開いていたりしています。また、美術学部のキャンパスで、版画や紙漉きなど大学の先生や学生の方々の指導で

体験させてもらい「幼稚園児のゲイジツ」として作品を展示する展覧会を行っています。本物の芸術を子ども達なりの感覚で実体験し、感動し、情緒豊で感性豊かな子ども達が育っていくことを願っています。



度「しなる」必要があるように)。慎重さが強すぎると、落ちるリスクを考えすぎて一歩が踏み出せないうし、逆に大胆さが強すぎると、自分の力の限界を超えて落下する可能性が高くなるからです。綱渡り師の技術とは、それに加え、大胆さを意図的に前面に押し出すことで、地道な努力の過程や慎重さを覆い隠すエネルギーにあります。彼らにとっては「無謀」に見せることでさえテクニックの一つと言っても過言ではありません(実際、プティは綱から落ちそうになる技もプロ級でした)。ここまで無謀さに自覚的であるのは難しいにしても、(これはどんな分野にも当てはまるで

しょうが) 限界まで努力した後に「もうどうなっても良い」と開き直ることも必要ではないでしょうか。その瞬間においてこそ、自身が求めていた最も大切なものが手に入れられるのではないかと思います。私の専門であるフランス語も、とても地味で緻密さが求められる勉強と、間違いを恐れずに使おうとする大胆さの両方を持ち合わせてこそ上達します。何よりもこのバランスが難しいのですが(私自身は大胆さが先立って何度も綱から落ちたことがあります(笑))、そこからもたらされる美や感動を、みなさんと共に見出してゆけることを切に願っています。



参考文献  
(左) フィリップ・プティ(畔柳和代訳)  
「マン・オン・ワイヤー」白揚社、2009年。  
(右) モーディカイ・ガースティン(川本三郎訳)  
「綱渡りの男」小峰書店、2005年。



# マスター ↑↓to アーティスト



## 【第11回】 ＜ 深奥なる世界の とば口 ＞

松波千津子 音楽学部 演奏学科  
声楽コース 教授

(まつなみ ちづこ)

- 岐阜県生まれ。
- 1982年 愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業
- 1984年 愛知県立芸術大学音楽研究科声楽専攻修了
- 1984年 第53回日本音楽コンクール 声楽部門第3位入賞(1位なし)
- 1987年 岐阜県音楽活動特別奨励賞受賞
- 1987年 文化庁国内芸術家研修員修了
- 1999年 岐阜県芸術文化奨励賞受賞
- 2001年 名古屋市長芸術奨励賞受賞

名古屋オペラ協会会員 (副委員長)  
日本発声指導者協会会員  
CBCクラブ会員

華のある人だ。居るだけで、部屋がパツと明るくなるような華やかさがある。数多ある音楽の中でもとりわけ華やかなオペラの世界、その舞台上で主役を演じてきたことを鑑みれば当然ではある。しかも、溫柔な人柄を偲ばせる、気さくな、くだけた話し振りに誰しもすぐ好感を抱いてしまうことだろう。音楽の師としてだけでなく、それ以上に親しみを感じ慕う学生も数多いに違いない。飾り気のない物言いは、確固たる自信に裏打ちされたもの、と考え始めたところで、口を突いて出てきた言葉は少し意外なものだった。

「今になってようやく、声楽という奥深い世界の入口に立った気がするんです」

これまで、叙情的に情感を歌い上げるリック・ソプラノを自認し、そういった楽

曲をレパートリーとしてきた。それ以外のものを演じるなど考えたこともなかった。ところが昨年、モーツァルトの「魔笛」、「夜の女王」をと求められた。オペラファンにはよく知られるところだが、その役柄には「夜の女王のアリア」といわれる2曲の難曲がある。その2曲は、どちらもソプラノの中でも最高音域を使うコロラトゥーラで歌うものである。とりわけ2曲目の「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え」は、超絶技巧が駆使される難曲中の難曲として知られ、夜の女王はヒロインの母親役にも係わらず、若手ソプラノの登竜門の役柄となっている。コロラトゥーラは、リック・ソプラノの自分では出したことのない音域、もちろん歌ったことはない。役を引き受けることを断った。しかし、夜の女王の、娘を思う母親としての立場と、娘を顧みず復讐に心を燃やす壮絶な場面の2面性

を、若手の歌手では表現しきれないと三顧の礼を尽くして頼まれてしまう。

そこから猛練習が始まった。楽曲中の最高音「3点F」を、自分のものにするために。「根性で出したのでは駄目なんです。次の日、声が出なくなるのでは困るわけです。純粋に技術として、声帯を薄く伸ばし、呼吸をコントロールして練習するんです。すると、出るんですよ！ 訓練って凄いなって(笑)」改めて感じ入ったという。

「声楽は3つの要素から成り立っているのです。自分の体を楽器とするわけですから基礎になるのは体力ですね。それに楽曲を理解する力。それから、理解したことを表現する力ですね。これらが、年齢を重ねることによって、バランスよく磨かれるものなのだとつくづく感じました。経験を重



「天守物語」1999年 愛知県芸術劇場 大ホール  
(名古屋オペラ協会、名古屋市芸術奨励賞 受賞)



「春琴抄」1993年 愛知県芸術劇場 大ホール  
(愛知芸術文化センター 開館記念、オペラ協会創立10周年記念公演)

ねてきたからこそできることだと。だから、まだ、私は、ようやく入口に立てたところ……」

夜の女王に挑戦したこと、自分でできないと思っていたことをやり遂げたことを「ドキドキする」と子供のような好奇心いっぱいの瞳で語った。さらにもう一度、挑戦者になりたいと、今度は、おなじくコロラトゥーラの難曲、「ランメルモールのルチア」(政略結婚で引き裂かれた恋人たちの悲劇。正気を失ったヒロインがフルートとの掛け合いで延々と歌う「狂乱の場」が見どころ)にチャレンジするという。

挑戦を続けることと、それを支えるモチベーションについて訊いてみると、子供のように無邪気だった瞳は、真摯なものへと色を変えた。「私が、これまで色々なチャン



「電話」1996年 しらかわホール  
(しらかわホール主催：松波千津子スペシャルコンサート)



「松波千津子 ソプラノリサイタル」2003年 しらかわホール  
(平成13年度 名古屋市芸術奨励賞 受賞記念)

1984年から名古屋オペラ協会会員、2006年同協会副委員長を務める。オペラ「フィガロの結婚」のスザンナ役でデビュー、「蝶々夫人」「コシ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「椿姫」「道化師」「唐人お吉」「春琴抄」「夕鶴」「天守物語」、オペレッタ「メリー・ウィドウ」「こうもり」等、数多くの主役を好演し、好評を得る。NHK・FMやTV、ソロサイト、宗教曲のソリストとして多数出演するだけでなく、中国、アメリカ、ブラジル、韓国などの友好親善演奏会に招聘されるなど、国内外にて活躍。

スをいただけたことは、周りの人たちのおかげだと思のです。支えてくれた両親をはじめ、色々なことを教えてくださる先輩がいます。どうして、いつまでも生き生きとしていられるのか、今でも、先輩たちに尋ねることがあるんですよ。そんな素敵な大人たちが、支えてくれる人たちが、いつも私の周りにいてくれたんです。私もそんなふうになれるように、まだまだ成長しなくてはいけないんです。どこまでいけるかわからないけど、歌わせていただける限り、成長を続けますよ」 鼓舞するような、決意するような強い口調で語る。

これまで、「蝶々夫人」「春琴抄」「天守物語」等々、数々の日本的なテーマのオペラも演じてきた。そうするなかで、歌舞伎にも大きな興味が湧いてきたという。「学生たちに、日本の伝統芸能にも触れさせよう



「道化師」2008年 長久手町文化の家 森のホール



「蝶々夫人」1993年 愛知県芸術劇場 大ホール  
(日生劇場 主催)

と一緒に観に行ったのです。オペラにも絶対に役立つと思うからです。役者も演奏の方たちも、呼吸の間合いといい、立ち振る舞いといい、本当に素晴らしいですよ。衣装は目にも楽しいです。じつは、『修善寺物語』(作：清水修)を演ったときに、歌舞伎の演出家の方にオペラの演出をさせていただいたんですけど、オペラとまったく同じなんです。歌舞伎の台詞の抑揚って、オペラの歌の表現と同じなんです。舞台での所作も何もかも、オペラに通じるころがあるように思うんです」 歌のこと、衣装のこと、肉体的にも精神的にも健康でいること、美味しいもののこと、生きること…。話題はとどまるところを知らず縦横無尽に広がる。そして、そのすべてはオペラの世界に通じている。溢れ出るようなオーラに、いつしか話を聞くこちらまで気力が充実してくるような気がした。

## 2010年10月～2011年3月までの主な行事・イベントスケジュール

※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

### 音楽学部

- 研究生特別演奏会  
10月14日(木) 18:00開演予定  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オーケストラ 第28回定期演奏会  
10月28日(木) 18:45開演予定  
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 第18回 ピアノの夕べ  
11月11日(木) 17:30開演予定  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第33回 定期演奏会  
11月18日(木) 18:00開演予定  
三井住友海上しらかわホール
- 第29回 室内楽の夕べ  
12月9日(木) 18:00開演予定  
熱田文化小劇場
- 電子楽器コース演奏会  
12月10日(金) 18:30開演予定  
熱田文化小劇場
- 冬期音楽講習会  
12月24日(金)～27日(月)  
本学東キャンパス
- 平成22年度 研究生修了演奏会  
2月1日(火) 18:00開演予定  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第9回 歌曲の夕べ  
2月10日(木) 18:30開演予定  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 大学院音楽研究科 特別演奏会  
2月15日(火) 17:30開演予定  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第15回 春のコンサート ピアノのしらべ  
2月19日(土) 17:30開演  
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オペラ公演 「フィガロの結婚」  
2月19日(土)午後開演  
2月20日(日)午後開演  
名古屋市芸術創造センターホール
- アンサンブル・フィラルモニク・アヴァン  
第12回定期演奏会  
2月23日(水) 18:30開演予定  
長久手町文化の家 森のホール
- 第38回 卒業演奏会  
3月3日(木) 18:00開演予定  
3月4日(金) 18:00開演予定  
三井住友海上しらかわホール

- 平成22年度 音楽企画(8)  
"ザ・ルネッサンス21"  
3月8日(火) 18:00開演予定  
本学東キャンパス3号館ホール
- 大学院音楽研究科 第13回 修了演奏会  
3月9日(水) 18:00開演予定  
3月10日(木) 18:00開演予定  
3月11日(金) 18:00開演予定  
三井住友海上しらかわホール
- ミュージカル公演  
3月19日(土) 18:30開演予定  
3月20日(日) 14:00開演予定  
名古屋市青少年文化センター アートピアホール

### 美術学部 デザイン学部

アート&デザインセンターの展覧会スケジュールを含む

- デザイン学部特別客員教授  
檜原由比子氏ワークショップ  
10月14日(木) 13:10～  
本学西キャンパス
- 「アート&エコ・マッチングプロジェクト  
in NUA」展  
「Hand Hospeace; 医療と美術」展  
10月15日(金)～20日(水)  
本学西キャンパスA&Dセンター
- 「遭遇するドローイング;  
ハノーファー&名古屋2010」展  
10月29日(金)～11月3日(水)  
本学西キャンパスA&Dセンター
- 旧加藤邸アートプロジェクト2010  
11月6日(土)～14日(日)  
北名古屋市回想法センター
- 2010年度秋の企画展  
萩原修 デレクシジョン  
「プロジェクトファーム」展  
11月12日(金)～24日(水)  
本学西キャンパスA&Dセンター
- 美術学部特別客員教授  
澄川喜一氏公開講座&シンポジウム  
11月17日(水) 13:10～  
本学西キャンパスB棟大講義室
- 2010年度 後期交換留学生作品展  
「幼稚園児たちのゲイジツ」展  
12月3日(金)～8日(水)  
本学西キャンパスA&Dセンター
- 美術学部コース展  
1月14日(金)～19日(水)  
本学西キャンパスA&Dセンター

- 「AFTER REMISE#12  
石倉悦加+加藤美奈子」展  
1月28日(金)～2月1日(火)  
本学西キャンパスA&Dセンター
- 第38回卒業制作展  
3月8日(火)～13日(日)  
愛知県美術館ギャラリー  
名古屋市民ギャラリー矢田  
本学西キャンパス
- 第15回大学院修了制作展  
美術研究科・デザイン研究科  
3月1日(火)～6日(日)  
名古屋市民ギャラリー矢田

### 人間発達学部

- 2010年度 後期子育て支援講座  
9月1日(水)～11月25日(木)  
9:30～12:00(毎週水・木曜日)  
本学東キャンパス9号館3F

- 芸大祭(全学同日開催)  
10月28日(木)～30日(土)  
本学東西両キャンパス

### 名古屋保育・福祉専門学校

- 入学選考日  
10月9日(土)・10月23日(土)・  
11月13日(土)・11月27日(土)・  
12月18日(土)・1月22日(土)・  
2月26日(土)・2月28日(月)以降
- 進学相談会  
10:00～12:00  
10月16日(土)・10月30日(土)・  
11月20日(土)・12月11日(土)・  
1月15日(土)・2月5日(土)
- 学校祭  
10月30日(土) 10:00～

### 附属クリエ幼稚園

- 運動会  
10月9日(土) 9:00～  
大学 テニスコート
- 遠足  
10月27日(水) 予定 9:00～  
ひばりが丘公園

- 秋のおんがくかい  
11月4日・11日(木) 10:30～
- 発表会  
12月11日(土) 9:30～  
大学 音楽講堂
- クリスマス会  
12月21日(火) 10:30～
- 人形劇観劇  
1月12日(水) 10:30～
- 造形展  
1月23日(日) 9:30～
- おんがくかい  
2月8日・9日(火・水) 10:30～
- お別れ会  
3月11日(金) 13:30～
- 卒園式  
3月15日(火) 10:00～

### 涌子幼稚園

- 23年度新入園願書受付  
10月1日(金)より 10:00～
- 運動会  
10月17日(日) 9:00～予定
- 秋の遠足  
11月5日(金)
- 作品展  
11月20日(土)～21日(日)
- クリスマス会  
12月16日(木)
- 餅つき  
1月12日(水)
- 23年度新入園説明会  
1月24日(月) 10:30～
- 生活発表会  
2月20日(日)
- ひなまつり会  
3月3日(木)
- 修了証書授与式  
3月17日(木)

### 編集後記

3年に一度の国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」が「都市の祝祭 Arts&Cities」をテーマに、愛知芸術文化センターを主会場として開催されています(10月31日まで)。この芸術祭に出品するため、去る8月18日に、中国を代表する現代美術家として国際的に高く評価されている蔡國強氏による新作の火薬絵画の制作が、本学西キャンパス体育館で行われました。今回は、この蔡國強氏による火薬絵画の制作の様子を中心として、あいちトリエンナーレを特集しました。猛暑の中(体育館には冷房が無い)長時間かけて行われた制作は、努力と忍耐を超えた感動的なものでした。

厳しい就職戦線の中で内定を勝ち取ったデザイ

ン部の学生に、内定をもらうまでの活動を振り返ってもらいました。インターシップなども含め、何事にも積極的に取り組むことが大切なのです(Entexit)。

「マスター to アーティスト」は声楽の松波千津子先生に登場していただきました。取材中、やさしい語り口とは対照的に、時折口から出される「ソプラノ」に圧倒されながらのインタビューでした。

本誌へのお問い合わせやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。

geibun@nua.ac.jp



### 大学基準協会の 認証評価に合格しました

本学は2006年4月に、認証評価機関である大学基準協会の大学基準に適合と認定され、正会員になりました。認定期間は、2006年4月から2011年3月までです。これによって、法令化されている「第三者による認証評価」にも合格したことになります。



表紙の  
写真

蔡國強氏があいちトリエンナーレに出品した火薬絵画「美人魚」の制作風景(本学体育館にて、学生が参加)

発行:名古屋芸術大学  
編集:全学広報誌編集委員会  
制作:(株)クイックス  
発行日:2010年10月20日

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学 芸術文化交流室  
〒481-8535  
愛知県北名古屋市徳重西沼65番地  
電話 0568-24-0325  
Fax 0568-24-0326  
E-mail geibun@nua.ac.jp